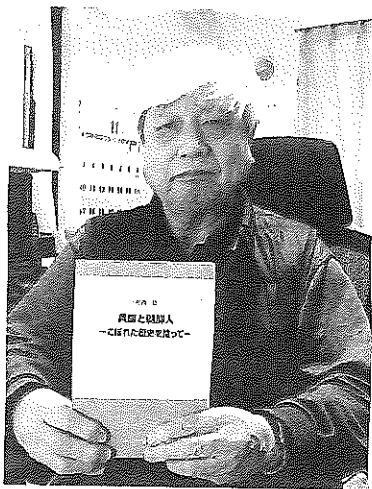


戦前の朝鮮人 社会史を本に

著書「兵庫と朝鮮人」を手にする堀内
稔さん 神戸市東灘区本山南町8



むくげの会・堀内さん、県内の記録を出版

戦前の県内朝鮮人の歩みを記した「兵庫と朝鮮人」が出版された。阪神間や神戸市などの朝鮮人の社会運動や生活実態を当時の新聞記事を基に紹介。著者で、朝鮮半島の歴史や文化を学ぶ市民サークル「むくげの会」のメンバー堀内稔さん(77)は神戸市東灘区に「戦前の朝鮮人の史料は少なく、記録に残す必要がある」との思いからまとめた」と話す。

堀内さんは京都府舞鶴市出身で、神戸市外国語大生時代にベトナム戦争の反戦

団体「ベ平連神戸」に参加。当時、県内で部落差別への糾弾闘争が盛んになり、内部に差別問題の研究会を立ち上げた。1971年には同会を母体にむくげの会を結成し、朝鮮をテーマにした機関誌「むくげ通信」を隔月で発行してきた。

今回の著書はむくげ通信の連載をまとめたもので、土木工事に従事したり、教育の普及に努めたりした朝鮮人を取り上げている。明治時代の政治家朴泳孝が亡命中の神戸で私塾を開いたことや、濟州島出身の海女が神戸港に沈む鉄くずを集

めていたことも紹介。他にも武庫川の改修工事に携わった朝鮮人が尼崎市の守部地区で生活を始め、互助会を立ち上げて小学校を設置した経緯などについて掲載している。

堀内さんは「戦前の朝鮮人の生活を知ること、現代の差別問題などを考えるきっかけになれば」と語る。A5判219頁。1650円(税込)。むくげの会 078・891・3018 (池田大介)

2024.11.29 神戸高橋